

125mm

A

長谷部葉子研究会

HASEBE LAB

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスに所属する研究会。
教育分野から、特に異文化・異言語コミュニケーションへの理解を切り口に、
地域との協働によるソーシャルトランスフォーメーションを持続可能なカタチにすることを研究しています。
現場でのフィールド活動や実践を通じて、社会の問題を「教育」や「コミュニケーション」に焦点を当て、考察。
主に5つのプロジェクトに分かれ、それぞれの分野や現場に応じた活動を展開しています。

Local Active-Learning Project

長谷部葉子研究会に属するプロジェクトの1つで、
地方（長野県木曽郡木曽町開田高原）の中学生と共に
地元の問題発見・解決に向け模索し発信する活動や、
大学生・地域外の同世代との交流活動を行っています。
これらの活動を学校や地方行政と企画・実施することで、
中学生により多様な学びを提供するとともに、より多くの
住民が多角的に地域を捉え、地域の将来について能動的に
考えるきっかけとなることを目標としています。教育を
きっかけとして、地域が存続、活性化することを目指し、
地域に根ざした活動を現在も継続的にこなっています。



開田高原

KAIDAKOGEN

ー長野県木曽郡木曽町開田高原ー

[人口] 約1700人

[最寄駅] JR 木曽福島駅 開田高原最寄駅からは町営バスで40分ほど

[木曽町立開田中学校] 地域で唯一の中学校で全校生徒は28名(昨年度は36名)

同級生が幼少期から変わらないため生徒同士の繋がりが強い学校。生徒同士の繋がりが強い一方、
塾や習い事などの中学生の学校外のコミュニティが近辺に少なく、多様性に触れる機会が少ないことも
特徴としてあげられます。

128mm

B

今後の展望

開田高原が地域として直面している問題として、生徒数の減少により、地域唯一の中学校が
廃校の危機にあるという現状があります。中学校が地域からなくなること、若者の人口の流出が
さらに加速するのではないかと私たちは考えています。本プロジェクトは今まで「都市と地方の教育機会の差」を
問題意識として活動してきました。今後も、引き続き生徒にとってのより良い学びのために、これまでの活動を
継続して行うことで、この活動が開田中学校の魅力の一つとなり、中学校の存続、また地域の存続に
貢献できないか模索しています。今後、教育分野での中学校の魅力化を視野に、地域住民の方々と
活動を進めていく予定です。

メンバー紹介

\\ わたしたちと一緒に活動しましょう //

横地 うらら(環境情報学部3年)
#中高連携 #対話
#半歩先が楽しみになるキャリア教育

白土 昌健(環境情報学部2年)
#教育 #学校教育 #機会の平等性

斉藤 汀桜(総合政策学部3年)
#ワークショップ #コミュニケーション

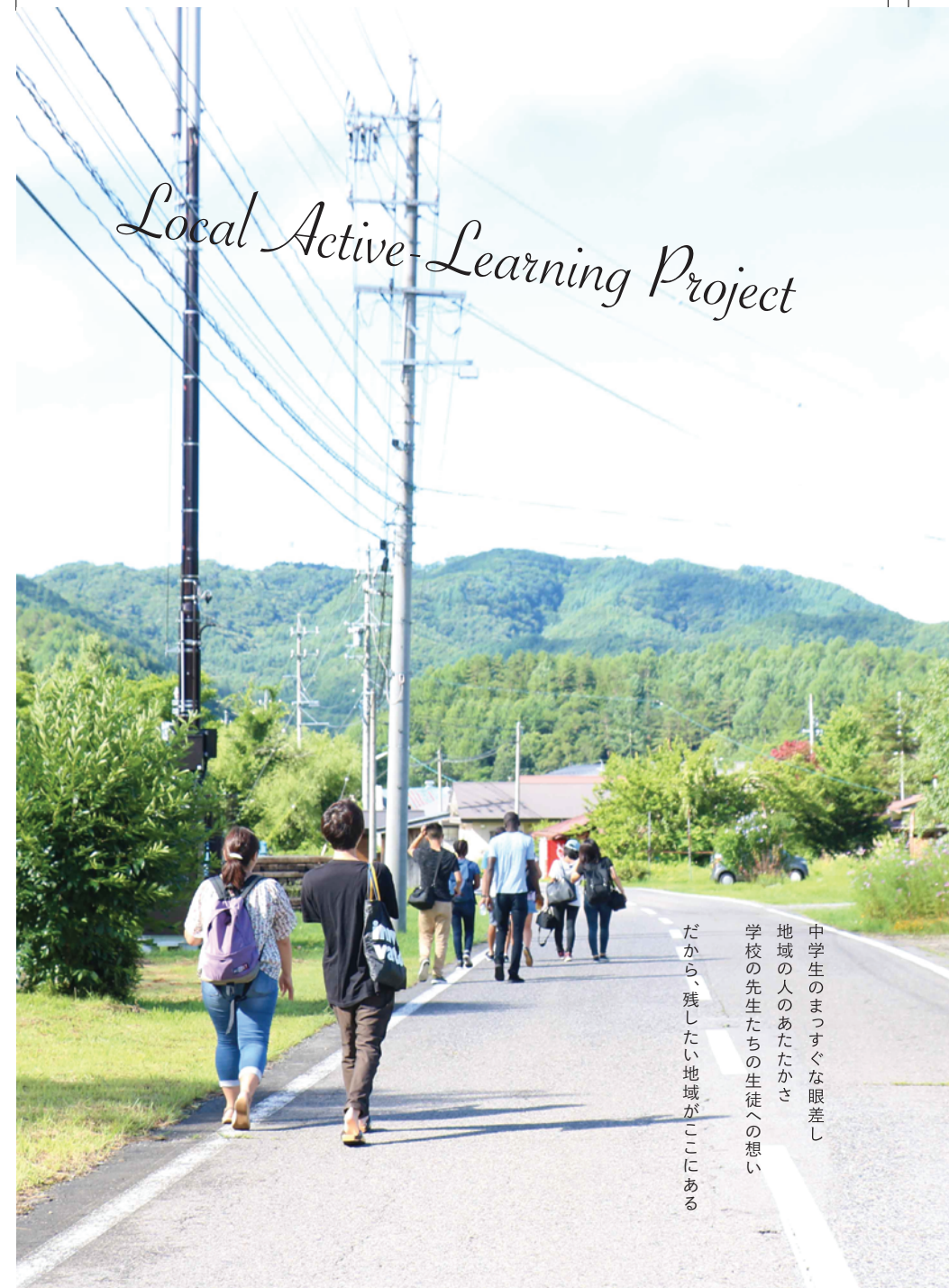
鳥居 梓(総合政策学部3年)
#教育 #異文化理解 #ワークショップ
#授業デザイン

田中 朋弥(総合政策学部2年)
#アクティブラーニング #社会的能力
#認知心理学 #自信 #WSデザイン #家庭教育

連絡先：lap.hasebelab@gmail.com

128mm(表紙の面です) C

Local Active-Learning Project



中学生のまっすぐな眼差し
地域の人のあたたかさ
学校の先生たちの生徒への思い
だから、残したい地域がここにある